

2017年12月

日本の金融緩和政策

経営学部 経営学科 坪井ゼミ
B4R11148 野津 将洋

【卒業論文概要】

今回私が選んだテーマは「日本の金融緩和政策」である。2016年1月29日に日本銀行は金融政策決定会合で、金融機関が日銀に任意で預けるお金に付ける利子をマイナスにする「マイナス金利政策」の導入を決めた。マイナス金利とは通常の場合、我々が銀行に預金すると、微々たるものだが利子がつき少しずつ増えていく。これが、マイナス金利になると、預金している分の利子を、銀行へ払わなければならなくなる。これがマイナス金利である。日銀は現在、2%の物価目標を掲げて目標達成するまで金融政策を継続することを主張している。しかしこれまでの円安効果が切れ、原油価格の下落などにより、今後のインフレ率は低下していくことが考えられる。日銀は現在でも量的・質的金融政策を行なっているので、さらに追加の金融緩和を行なわなければならなくなるかもしれない。今回のマイナス金利によって各企業には良い影響も悪い影響も出てくることが予想されている。それはもちろん私たちの就職にも大きく関係しているので、今後の金融政策により関心を持つ事が重要だと考えている。今回のマイナス金利導入によって、日銀の黒田総裁の物価目標達成への強い意志が表明されたが、達成時期の先延ばしなどによって不信感を抱く国民も少なくはないだろう。今後も物価目標達成が困難になった時は、追加の金融緩和が行われる可能性がある為、低金利時代は2018年よりさらに先まで続く可能性もある。